

4. 管理栄養士養成大学における基礎学力向上と養成教育の効果的連動に向けた課題に関する調査

研究代表者 小切間美保 同志社女子大学生生活科学部
研究分担者 今井 絵理 滋賀県立大学人間文化学部
研究協力者 眞鍋 裕香 同志社女子大学大学院生活科学研究科
研究協力者 飯田 芽生 同志社女子大学大学院生活科学研究科

研究要旨

管理栄養士は活躍の場が多領域におよび、多職種連携で複雑な栄養課題に対応するために職種・領域横断的に必須となる教育科目の基礎学力向上に向けた研究が必要である。しかし、この観点での報告はほとんどない。そこで本研究では、管理栄養士養成大学 143 校を対象に、基礎学力向上に向けた特徴的な取組や管理栄養士養成教育との連動を踏まえた課題の把握を目的に、Web システムによる調査を実施した。86 大学から回答があり、全設問のうち次の自由記述の 2 問を用いて質的データ分析を行った。①大学で実施している理科分野の基礎学力向上に向けた特徴的な取組について(24 大学から回答)と、②管理栄養士養成教育の基礎学力向上に関する課題について(48 大学から回答)である。なお、同調査の量的データ分析の結果は「2. 入学前・入学後教育に関する管理栄養士養成大学の実態調査」で報告した。

分析の結果、①では 30 件のコードが抽出され、5 つのサブカテゴリー、2 つのカテゴリーに集約された。②では 74 件のコードが抽出され、8 つのサブカテゴリー、4 つのカテゴリーに集約された。①の結果から、入学前教育についてはコードが 3 件と少なく、一方で入学後教育においては、専門教育の学びにつなげるために初年次に理科の科目を設置し、学力に合わせた個別対応やクラス編成などの取組を行っていることが観察された。②の結果からは、入試の多様化とともに入学者の基礎学力の低下や学力差が生じている現状がみられ、入学者の学習習慣・態度、および管理栄養士の職務への理解が課題であることが認められた。また、本研究では栄養学の基盤となる理科分野について回答を得たが、理科の科目に限らず文章力や読解力、計算能力のコードもみられた。

以上、大学入試の多様化に伴う管理栄養士養成大学における入学前・入学後教育の課題に関する調査により、特徴的な取組の実施状況、および課題と感じている事項を明らかにした。今後の管理栄養士養成教育における基礎学力向上に係る充実策検討に向けた議論のための基礎資料を得ることができた。

A. 背景と目的

近年、管理栄養士の活躍の場が多領域におよび、多職種連携で複雑な栄養課題に対応できる管理栄養士の養成が社会的要請となっている。そのため、管理栄養士養成施設は、職種・領域横断的に必須となる教育科目について、学生の基礎学力を確実に向上させていく必要がある。具体的には、入学前・入学後教育による基礎学力向上の支援と、栄養学等の専門教育との効果的な連動が重要となる。

一方で、18歳人口の減少に伴い大学を取り巻く状況が変化している¹⁾。さらに、大学入試の多様化が進んだ背景¹⁾に加え、2013年に実施された全国の高等学校長と大学の学科長を対象とした調査²⁾では、「高校の教科・科目の知識・理解が不足している学生が半数以上いる大学(学科)が3割」と報告され、入学者の学力は低下傾向と言われている。管理栄養士養成大学においても栄養学を学ぶための基盤となる高等学校教育における化学、生物の学力低下が危惧されている。管理栄養士養成施設を対象とした実態調査には、栄養学教育モデル・コア・カリキュラム作成のための管理栄養士・栄養士の教育カリキュラム現状分析ワーキンググループが実施した調査³⁾がある。しかし、これは全教育カリキュラムから基礎教養科目を除いた、専門的な教育内容に関する基礎調査であり、理科等のような科目の設置状況や課題に関する実態調査は行われていない。また、国内の管理栄養士養成施設の学生を対象とした基礎教育科目としての理科分野におけるリメディアル教育について文献検索を行ったが、日本学術会議加盟学会が発行する学術論文としては見当たらなかった。

そこで本研究は、基礎学力向上に向けた特徴的な取組や管理栄養士養成教育との連動に

おける課題の把握を目的とし、入学前・入学後教育の実態を把握するため、管理栄養士養成大学を対象に調査を行った。

B. 対象および方法

B-1. 調査対象

2024年4月現在、本邦の管理栄養士養成施設151校のうち、専門学校6校と募集停止を決定した2大学を除いた143大学とした。

B-2. 調査方法

2024年11月8日に各大学施設長および学科長へ依頼状(資料1、資料2)、全国栄養士養成施設協会の協力依頼文書、厚生労働省健康・生活衛生局健康課栄養指導室の協力依頼文書と調査項目の一覧表(資料3)、Web回答用URL、QRコードおよび大学毎の回答用の「ログインID」と回答にあたっての留意事項の書類を郵送し、Webシステム上で回答を得た。各大学の学科長等、質問項目の回答が可能な教員に回答を依頼した。12月5日にデータを回収した後、回答期限の延長を記載した再案内を郵送し、12月23日に最終データを回収、集計した。調査票のWebシステム的设计およびデータ回収は株式会社Mに委託した。

B-3. 分析方法

本研究では、調査項目のうち、「貴学で実施している理科分野の基礎学力向上に向けた特徴的な取組があれば、ご回答ください。」と「管理栄養士養成教育の基礎学力向上に関する課題についてご意見をお願いします。」の自由記述の2項目について得られた回答を用い、質的データ分析^{4,5)}を行った。分析は次の(1)~(5)の手順で行った。(1)回答の原文を可能な限り反映することを原則とし、明らかな誤字や脱字

については加筆修正しデータクリーニングを行った。(2)データクリーニング後、自由記述を意味の通じるセグメントにし、コード化した。(3)コードを類似した特徴に基づいて分類し(以下、サブカテゴリー)、整理した。(4)サブカテゴリーを類似性により整理し、カテゴリーに分類した。(5)コード、サブカテゴリー、カテゴリーの分類を行う際には、複数回にわたり自由記述の回答を見返し、前後の記述を考慮して慎重に検討を行った。(1)~(5)の手順を、第一著者と第三、第四著者の管理栄養士3名によって行い、意見が一致するまで繰り返し検討した。さらに、コード、サブカテゴリー、カテゴリーに矛盾がないかを確認するため、管理栄養士である第二著者の意見を踏まえて再検討した。なお、結果には、カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを[], コードを〈 〉で表記した。

B-4. 倫理的配慮

調査の依頼文書には、調査の趣旨、調査方法、情報管理の方法、自由意思による回答について説明し、対象者からの調査の回答をもって調査協力への同意を得た。調査項目に固有名詞の記載箇所はなく、個人が推定されるような質問項目は含めなかった。大学名と「回答用ログ ID」の対応表はデータ化せず手書き文書とし、研究代表者が厳重に保管した。本調査研究は、同志社女子大学「人を対象とする研究」に関する倫理審査委員会(承認番号 2024-15)により2024年8月29日承認(2024年11月6日一部変更届承認)を得て実施された。

C. 結果

C-1. 分析対象

調査対象143大学のうち、86大学から回答が得られた(回答率60.1%)。内訳は、国公立大

学16校(18.6%)、私立大学70校(81.4%)であった。設問の「貴学で実施している理科分野の基礎学力向上に向けた特徴的な取組があれば、ご回答ください。」に対する自由記述の回答は、24大学(国公立大学3校、私立大学21校)から得られ、設問の「管理栄養士養成教育の基礎学力向上に関する課題についてご意見をお願いします。」に対する自由記述は、48大学(国公立大学6校、私立大学42校)から回答が得られた。

C-2. 理科分野の基礎学力向上に向けた特徴的な取組

表1に示す通り、30件のコードが抽出され、5つのサブカテゴリー、2つのカテゴリーに集約された。カテゴリーの【入学前教育】では、[教育方法]と[実施体制]の2つのサブカテゴリーがあり、[教育方法]では〈対面で実施〉、〈入学前課題および課題の進捗状況を外部委託〉の2件のコード、[実施体制]では〈常勤教員の負担軽減〉の1件のコードが抽出された。

次に、【入学後教育】には、[教育内容]、[教育方法]、[実施体制]の3つのサブカテゴリーがあり、[教育内容]では、〈1年次前期に選択科目として専門基礎科目のための化学・生物を開講〉、〈専門基礎科目のための化学・生物・数学を開講〉など13件のコードが抽出された。その中には、講義科目だけでなく、〈1年次前期に理科に関する実習を開講〉というコードもあった。[教育方法]に集約されたコードは、〈プレースメントテストと補習授業の実施〉、〈試薬調整法や濃度計算など苦手な学生を対象に時間外授業の実施〉など8件であった。

[実施体制]では、〈学習支援センターの活用〉、自主学習の指導の体制に関するコードがみられた。また、〈常勤教員が担当〉、〈教員間

で成績等の情報共有)のコードが抽出された。

C-3. 管理栄養士養成教育の基礎学力向上に関する課題

分析の結果、表 2 の通り 74 件のコードが抽出され、8 つのサブカテゴリー、4 つのカテゴリーに集約された。カテゴリーの【入試制度と入学者の状況】では、[入試制度]、[学力不足・学力低下]、[学力差]、[学習習慣・態度]、[管理栄養士の職務理解]のサブカテゴリーが抽出された。

[入試制度]に集約されたコードは、〈入学者減少の中での選抜方法〉、〈文系学生の受け入れの増加〉、〈年内入試による入学者の増加〉など 6 件であった。[学力不足・学力低下]には、〈年々基礎学力が低下〉の 4 件、〈理科系科目の基礎学力低下に限らず、国語、計算力の低下〉など 19 件のコードが集約された。[学力差]には、〈学生の学力差の拡大〉、〈理科系科目だけでなく、読解力、文章構成能力、計算能力などの個人差が大きい〉など 8 件のコードが集約された。

[学習習慣・態度]として、〈学力試験を課さない総合型選抜等で入学した学生の学習習慣の確立〉、〈学生の入学前教育の必要性の認識不足〉、〈基礎科目を多くの新入生に履修して欲しいが、任意のため受講しない学生が多数〉など 14 件のコードが集約された。また、[管理栄養士の職務理解]として、〈管理栄養士に求められる能力への理解不足〉など 2 件のコードが集約された。

カテゴリーの【大学の体制】では、〈担当する教員不足〉、〈時間割の限界〉、〈高大接続のあり方〉、〈年内入試で入学する割合の増加に伴う、入学前教育の必要性増大〉など 8 件のコードが抽出され、[体制に関する課題や対応]の 1 つの

サブカテゴリーに集約された。

カテゴリーの【教育内容】には、〈入試方法による学力差に対して、初年次教育で基礎を築く個別支援が必要〉、〈専門科目の内容理解のための基礎学力の補完〉、〈高等学校で化学を学んでいない学生への対応〉、〈理系科目、英語の基礎学力を上げる講座が必要〉、〈理科、国語教育が必要〉など 15 件のコードが抽出され、[教育内容に関する課題や対応]の 1 つのサブカテゴリーに集約された。

カテゴリーの【高等学校教育】では、〈高等学校教育から学習の習慣化が重要〉など 2 件のコードが抽出され[高等学校教育の課題]の 1 つのサブカテゴリーに集約された。

D. 考察

本研究では、管理栄養士養成大学を対象に、基礎学力向上に向けた特徴的な取組や養成教育との連動に向けた基礎学力向上に関する課題について、2 つの自由記述の調査項目を用いて分析を行った。

D-1. 理科分野の基礎学力向上に向けた特徴的な取組

【入学前教育】のコードの出現数は少なく、[教育方法]として、〈対面で実施〉というコードが得られたものの、〈入学前課題および課題の進捗状況を外部委託〉や[実施体制]の〈常勤教員の負担軽減〉というコードが得られたことから、大学が主体となって、入学予定者に対して実施している特徴的な入学前教育は少ないことが推測された。山本ら⁹⁾は入学前教育の実施状況と課題について、226 大学の調査結果を報告しており、入学前教育が導入されて 20 年近くが経過し、その間に入学者は多様化してきたにもかかわらず、入学前教育の主たる目的は依然として「高等学校レベルの学力の補填」と考えられ

ている実態を報告している。さらに、高大ラン
ジションを達成させるようなプログラムの提供や、
入学後の学びに向かうモチベーションを向上さ
せる取組が重要であると考察している⁶⁾。以上を
踏まえると、管理栄養士養成大学においても、
入学前教育の進化が必要であると示唆された。

一方、【入学後教育】では、[教育内容]に集約
された 13 件のコードには、具体的な取組がみ
られた。共通して、1 年次に理科に関する科目
を設置している実態があり、さらに講義科目だ
けでなく、〈1 年次前期に理科に関する実習を
開講〉というコードもみられ、管理栄養士養成大
学が初年次の理科教育を必要としていることが
認められた。先行研究では、医学部における生
物のリメディアル教育による効果が報告⁷⁾され
ている。管理栄養士学校指定規則⁸⁾に示される
専門基礎分野(「人体の構造と機能及び疾病の
成り立ち」、「食べ物と健康」)の修得のためには、
特に高等学校教育の化学、生物の基礎学力が必
要である。ところが、多様な入試制度により、入
学者の理科の科目の習得状況は十分とは言えず、
入学後の早期に基礎学力向上に向けた取組が必
要となっている実態が認められた。

次に、[教育方法]に集約されたコードには、
〈プレースメントテストと補習授業の実施〉など
があげられており、カリキュラムの進行に備えて必
要となる知識や技術の修得のための取組が行
われていると考えられた。大久保ら⁹⁾は、化学・
生物のプレースメントテストの得点と学生への
不正解解答の原因についてのアンケート調査
結果を分析し、プレースメントテストによるクラス
分けの妥当性は認められたものの、正答率の
低い集団の不正解の原因として、未学修が顕
著であり、中位群、高位群でも未定着や未理解
があったと報告している。本調査結果でも高等
学校の学習から大学教育への移行における課

題が推測された。また、[教育方法]に集約され
たコードと[実施体制]に集約されたコードから、
学生の学力に合わせたクラス編成や個別対応
を常勤教員が担当していると推測された。

D-2. 管理栄養士養成教育の基礎学力向上に 関する課題

【入試制度と入学者の状況】の[入試制度]に
集約されたコードから、大学では〈入学者減少
の中での選抜方法〉の改革が必要とされ、〈文
系学生の受け入れの増加〉や〈年内入試による
入学者の増加〉という状況を表していると考えら
れた。また、[学力不足・学力低下]では、〈年々
基礎学力が低下〉というコードおよび類似のコ
ードの出現数が多く認められた。先行研究に、
薬学部の学生を対象とした化学、生物、物理の
プレースメントテストの結果が 2021 年から 3 年
間で年々低下したとの報告¹⁰⁾があることから、
管理栄養士養成大学に限らない現象であること
が示唆された。さらに、[学力不足・学力低下]に
集約されたコードの中には、〈理科系科目の基
礎学力低下に限らず、国語、計算力の低下〉な
ど、国語、数学、英語の基礎学力の不足を危惧
するコードがみられた。田中ら¹¹⁾は、2016 年に
栄養士養成課程における計算課題の習熟等の
個別指導の取組を報告している。本研究結果
からも、このような取組の必要性が考えられた。
さらに、国語や文章力、日本語読解力、論理的
思考力などの言葉がみられ、理数系科目にとど
まらない基礎学力向上の必要性が認められた。

【学力差】においても、〈学生の学力差の拡
大〉、〈理科系科目だけでなく、読解力、文章構
成能力、計算能力などの個人差が大きい〉など
のコードが抽出され、入試制度の多様化に伴う
入学生の学力の差が顕著になっていることが
推測されるとともに、理科系科目に限らず、読

解力、文章構成能力の重要性が示唆された。本研究では基礎学力として化学・生物に重点を置いた調査を実施したが、今後、国語力等の基礎学力向上に関する研究が必要であると考えられた。

[学習習慣・態度]のサブカテゴリーから、〈学力試験を課さない総合型選抜等で入学した学生の学習習慣の確立〉が課題であると考えられた。また、〈学生の入学前教育の必要性の認識不足〉から入学までに基礎学力の補完が十分に行われていない現状と、入学後に〈基礎科目を多くの新生に履修して欲しいが、任意のため受講しない学生が多数〉という切実な現状が推測された。さらに、[管理栄養士の職務理解]として〈管理栄養士に求められる能力への理解不足〉があり、管理栄養士の職務に関する知識と意識の向上も合わせて行うことが必要であることが認められた。

刀根ら¹²⁾は、薬学部の学生を対象にした生物のリメディアル教育の受講により、早期に生物への苦手意識を取り除くことは、卒業に至るまでの長期にわたる学修意欲の維持・成績向上に寄与することを示唆した。加えて、山本ら⁶⁾の入学前教育から「主体的に学ぶ態度」の伸長に主眼を置いた入学前教育プログラムの提供とその成果の確認方法の確立が必要という示唆を踏まえると、入学前・入学後教育における、学習態度を向上させる取組が急がれる。

【大学の体制】では、[体制に関する課題や対応]にあげられた〈年内入試で入学する割合の増加に伴う、入学前教育の必要性増大〉が生じている一方で、大学では、教養科目や導入教育、管理栄養士学校指定規則⁸⁾に示されている講義または演習、実験または実習の単位数と卒業論文等の単位が取得できるカリキュラムを設定しなければならない。CAP 制もある中で、

基礎学力向上のための科目は初年次に実施する必要性が高いことから、〈時間割の限界〉というコードが抽出されたと考えられた。また、基礎学力向上のために常勤教員を採用することは難しいと推測されることから、〈担当する教員不足〉というコードが抽出されたと思われる。加えて、〈高大接続のあり方〉というコードもみられた。附属高等学校と入学前教育を実施している報告¹³⁾によると、大学で1年生の一般教養および基礎医学を担当する教員が、入学前の1月下旬から3月初めまでの期間に、課題解決型学習や実験、入学後に学ぶ内容の授業、実習、演習を行ったことで、基礎学力維持と学ぶ意欲の強化につながった可能性を認めている。この報告¹³⁾は、附属高等学校との連携という条件下であるが、教育連携校や指定校推薦の対象高等学校と大学間においても取組の必要性が高まっていると考えられた。

【教育内容】では、〈入試方法による学力差に対して、初年次教育で基礎を築く個別支援が必要〉と認識されていることや、〈専門科目の内容理解のための基礎学力の補完〉、〈高等学校で化学を学んでいない学生への対応〉が集約されていた。このことから、表1の【入学後教育】の[教育方法]にあげられた〈学力に合わせた個別対応〉や〈学修状況による履修指導〉が行われていると考えられた。さらに、表2の【教育内容】からは、〈入学後に文章講座とマナー講座を実施〉、〈自習学習のための映像資料の充実〉など、多様な取組を実施していることがうかがえた。

以上、本研究では入試の多様化を背景に管理栄養士養成大学における入学前・入学後教育の実態を調査した。入学前教育は外部に依存している現状が推測された一方で、入学後教育においては、専門教育の学びにつなげるた

めに初年次に理科の科目を設置し個別対応を含めた様々な取組が観察され、今後の管理栄養士養成における基礎資料を得ることができた。

本研究の限界として、分析対象が自由記述の内容であり、自由記述について記載がない大学があった中での分析結果であることがあげられる。また、本研究は質的データ分析であるため、量的に評価することはできないことから、一般化するには限界がある。

謝辞: 本研究では、143 大学へ調査へのご協力を依頼させていただきました。ご協力いただきました大学のご担当者の皆様に深謝申し上げます。

E. 結論

本研究では管理栄養士養成大学における入学前・入学後教育の実態を調査した。入学前教育は外部に依存している現状がある一方で、入学後教育においては、専門教育の学びにつなげるために初年次に理科の科目を設置し、個別対応を含めた取組が観察された。また、理科に限らず国語等の基礎学力を養う必要性が認められた。今後の管理栄養士養成教育における基礎学力向上に係る充実策検討に向けた議論のための基礎資料を得ることができた。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的所有権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

H. 参考文献

- 1) 文部科学省: 令和 5 年度 文部科学白書,
https://www.mext.go.jp/content/20240719-mxt_soseisk01-000037016_09.pdf(2025 年 3 月 21 日)
- 2) ベネッセ教育総合研究所: 高大接続に関する調査, 2014_koudai_all.pdf(2025 年 3 月 21 日)
- 3) 日本栄養改善学会: 平成 29 年度管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」報告書 資料編,
https://jsnd.jp/img/H29_siryohen_zentai.pdf
(2025 年 3 月 10 日閲覧)
- 4) 新保みさ, 吉井瑛美: 特定保健指導における ICT を活用した面接のメリット・デメリット—管理栄養士を対象とした質的調査—, 日本健康教育学会誌, 32, 84-93, 2024
- 5) 林芙美, 北島幸枝, 大久保公美, 小切間美保, 鈴木志保子: 管理栄養士・栄養士のめざす姿とその実現に向けて求められる資質・能力について—養成施設教員を対象とした調査結果から—, 栄養学雑誌, 77, S57-69, 2019
- 6) 山本以和子, 花堂奈緒子, 林寛子, 當山明華, 陣内未来: 高大接続改革に係る入学前教育の実施状況と課題, 大学入試研究ジャーナル, 34, 182-189, 2024
- 7) 後藤敏一, 松尾理, 伊藤浩行, 安富正幸: 「生物学」リメディアル教育の効果, 医学教育, 34, 303-309, 2003
- 8) 管理栄養士学校指定規則:

<https://laws.e-gov.go.jp/law/341M50000180002/>

(2025年3月21日閲覧).

- 9)大久保敦, 石原忍:科学教育における高校から大学への移行問題に関する事例研究ー化学・生物のプレースメントテストの解答に対する質問紙調査の分析からー, 中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要, 54, 107-112, 2022
- 10)井上能博, 池野聡一, 川幡正俊, 小池猛, 中里朱根, 岩田源太郎, 山崎輝子, 宇野譲:入学前リメディアル教育プログラムへの取り組み姿勢が入学後の成績に与える影響, リメディアル教育研究, <https://doi.org/10.18950/jade.2024.11.12.01>
- 11)田中恵子, 久米雅, 坂本千科絵, 坂本裕子, 村上俊男:栄養士養成課程におけるリメディアル教育の取り組み, 京都文教短期大学研究紀要, 54, 119-125, 2016
- 12)刀根菜七子, 三島健一, 藤岡稔大:生物リメディアル教育の長期的な効果の検証ー新規学修プログラムの開発に向けてー, 薬学教育 6,1-7, 2022
- 13)沖野哲也, 泰山浩司, 宮本修, 川上真美, 小野光男, 大村泰士:川崎医科大学と附属高校の高大連携の取り組みとその評価(2016~2018年度), 川崎医学会誌.一般教養篇, 47, 47-58, 2021

表 1 理科分野の基礎学力向上に向けた特徴的な取組

カテゴリー	サブカテゴリー	出現数*	コード
入学前教育	教育方法	2	対面で実施 入学前課題および課題の進捗状況を外部委託
	実施体制	1	常勤教員の負担軽減
入学後教育	教育内容	13	1年次前期に理科に関する実習を開講 1年次前期に選択科目として専門基礎科目のための化学・生物を開講 1年次前期に専門基礎科目のための化学・生物を開講 1年次前期に化学を開講 1年次前期に専門科目のため化学を開講 1年次前期に必修科目として専門基礎科目のための化学を開講 1年次基礎科目として、生物・化学を選択科目で開講 専門基礎科目のための化学・生物・数学を開講 選択科目として生物・化学を開講 必修科目として化学を開講 指定科目として化学の基礎を開講 化学を開講 理科に関する授業を多く実施
	教育方法	8	ブレースメントテストと補習授業の実施 補習授業の実施 試薬調製法や濃度計算など苦手な学生を対象に時間外授業の実施 学力に合わせた個別対応 学力に応じたクラス編成 学修状況による履修指導 教養科目として単位化 反復学習
	実施体制	6	学習支援センターの活用 自主学習として取り組めるよう演習課題を準備し、教員の指導を受けることが可能 常勤教員が担当(3)** 教員間で成績等の情報共有

* 全24大学の回答内容から抽出されたコードの出現頻度(件数)をサブカテゴリーごとに合計して表示

** 同一コードに3件

表2 管理栄養士養成教育の基礎学力向上に関する課題

カテゴリー	サブカテゴリー	出現数*	コード
入試制度と入学者の状況	入試制度	6	
			<p>入学者減少の中での選抜方法 文系学生の受け入れの増加 年内入試による入学者の増加(2)** 高等学校において理科系科目を履修していない 入試の選抜段階で学習能力の高い学生の獲得</p>
	学力不足・学力低下	19	
			<p>基礎学力の低い学生が増え、授業の理解不足が顕著 学生の基礎学力低下がここ数年で顕著 基礎学力の低下が著しい 入学者の学力の低下 年々基礎学力が低下(4)*** 理科科目に限らず、入学者の学力の低下 入学者の理数系科目の学力不足 理数系科目の学力不足による入学後の学力の伸び悩み 数学の基礎学力の低下 算数の学力低下 理科系科目の基礎学力低下に限らず、国語、計算力の低下 文章力の差が、レポートや卒論の仕上がりに影響 論理的思考力の不足 日本語読解力の不足 中学校までの学修の定着が不十分 中学生レベルの理数系科目の能力を担保</p>
	学力差	8	
			<p>学生の学力差 学生の学力差の拡大 基礎学力の差があること 基礎学力の差があり、対応に苦慮 基礎学力向上のための取り組みに適應することが困難な学生の存在 基礎学力向上のため課題理解が困難な学生の存在 計算ができない学生の増加 理科系科目だけでなく、読解力、文章構成能力、計算能力などの個人差が大きい</p>
	学習習慣・態度	14	
			<p>学習習慣がない 学習習慣がない入学生が多数 学習習慣や学習意欲の向上 学習習慣を身につけ基礎学力の向上を図ることが必要不可欠 学力試験を課さない総合型選抜等で入学した学生の学習習慣の確立 基礎学力が低下した学生における、学習習慣の確立 自律的に勉強する習慣の確立 自主的な学習 学習方法の確立 知識の暗記に重点を置いた学習姿勢 入学後のモチベーション 目的を持って、自らを高める力 学生の入学前教育の必要性の認識不足 基礎科目を多くの新入生に履修して欲しいが、任意のため受講しない学生が多数</p>
	管理栄養士の職務理解	2	
			<p>管理栄養士に求められる能力への理解不足 管理栄養士として働く現場で必要される知識が、人体の仕組み、疾病予防などに関係していることへの理解不足</p>

表 2 管理栄養士養成教育の基礎学力向上に関する課題(続き)

カテゴリー	サブカテゴリー	出現数*	コード
大学の体制	体制に関する課題や対応	8	個別対応が必要だが、教員側に余力がない 担当する教員不足 教員不足、CAP制など初年度教育に限界 関係する科目で教員が対応 時間割の限界 高大接続のあり方 年内入試で入学する割合の増加に伴う、入学前教育の必要性増大 対策を講じたいが、様々な制約により困難
教育内容	教育内容に関する課題や対応	15	基礎学力の低下があり対応が必要 学生の多様化への対応 入試方法による学力差に対して、初年次教育で基礎を築く個別支援が必要 専門科目の内容理解のための基礎学力の補完 入学前教育導入による専門基礎科目の理解度向上を期待 理数系科目の基礎学力に対する対応が必要 理数系科目の学力不足の補完では不十分であり、ゼロからの再教育が必要 高等学校で化学を学んでいない学生への対応 理系科目、英語の基礎学力を上げる講座が必要 理科、国語教育が必要 国語教育の充実 入学後、算数の授業が必要 入学後に文章講座とマナー講座を実施 継続した初年度教育の検討が重要 自習学習のための映像資料の充実
高等学校教育	高等学校教育の課題	2	高等学校までの教育の充実 高等学校教育から学習の習慣化が重要

* 全48大学の回答内容から抽出されたコードの出現頻度(件数)をサブカテゴリーごとに合計して表示

** 同一コードに2件

*** 同一コードに4件